

一 【出典】 沢木耕太郎 「銀河を渡る 全エッセイ」

問一 最初からきくがあるから

問二 (書こうとするものを) できるだけ眼に見えるようにする (方法)

問三 1 オ 2 イ 3 ア 4 エ 5 ウ

問四 I 1 裏 2 車 3 火 4 戸

II 1 エ 2 ア 3 イ 4 ウ

問五 1 自給自足 2 自画自賛

3 自作自演 4 自由自在

問六

例) 夏休みは毎日ゼミとりに行った。用心ぶかい ミンミン

ゼミは、ちよつとバカなアブラゼミに比べると捕るのが

難しい。この夏休みにアブラゼミは一〇〇ぴき以上捕っ

たが、ミンミンゼミは三びきしか捕れなかった。(96字)

ニ 1 ア↓エ↓ウ↓イ

2 エ↓イ↓ア↓ウ

3 ア↓ウ↓エ↓イ

三 1 ア・エ 2 ア・イ・オ

四 1 代 2 豆 3 上 4 日 5 朝

五 1 あらわ 2 あわや 3 あまた 4 あらた

六 A 1 活 2 決 3 骨

B 1 安 2 飲 3 塩

C 1 録 2 落 3 陸

【問題解説】

一

問一

——線部1「鉛筆を持つ手が動かなかった」とありますが、これはなぜですか。理由を説明した部分を問題文中から三十五字以内でぬき出し、始めと終わりの五字で答えなさい。

【シンプルな形を想定してから探す】

この問題は「ぬき出し」なので、本文の中に確実に答えがあります。このような場合、「なんとなく本文を読んでいて、良さそうなものが見つかったところで手を止め、字数を数える」という探し方をしてしまいがちです。ただし、このやり方では、見つからない時にはどうしようもなくなって、あせるだけになってしまいます。

これを防ぐには、「探したい形をある程度固めてから探す」ことが大切です。細かい言い回しはちがっていても、だいたい要素がつかめていれば、探している最中に似た表現を見つけて立ち止まることができるようになります。

設問から分かる要素をおさえておきます。

・理由の説明である

↓文末が理由を示す表現になっていることが考えられる。

「から、ため、ので、ゆえ」あたりがあやしい。

・「文章を書けない」とことと関連がある

↓「文章を書く」「マイナスな内容」の二要素が同時にふく

40分/80点

まれているはず。

これらを意識して、まずは「シンプルな形」を想定してから探しましょう。一番シンプルな形(この形なら見逃すはずはないだろう、と感じる形)は

・鉛筆を持つ手が動かなかったのは、〇〇だからだ。
・△△なので、鉛筆を持つ手が動かなかった。

という形でしょう。「鉛筆を持つ手が動かない」はもっと単純に「書けない」あたりが変わっている可能性があります。

これを意識して文章を読み進めると、

十一行目

なぜ書けないのか。それは「最初からきちんとした文章を書かなくてはならないという脅迫感があるからだ。」

が見つかるはずですが。

ただし、この問題ではここまで一つ一つ理詰めでいなくても、実際には、「なぜ書けないのか。」とそれに続く「から」を見つけられれば答えにはたどりつけるでしょう。

問二

——線部2「ひとつの方法」とありますが、これはどんな方法ですか。解答らんに合わせて、問題文中から十五字でぬき出して答えなさい。

※解答らんは

「書こうとするものを」「解答らん」「方法」という形になっています。

【字数だけで追わない】

字数が十五字と指定されています。ただ、「十五字」でちょうど切れるものを探していく、という探し方はただのパズルであって国語ではありません。指定された字数がもっと少ない場合はより「字数で攻める」傾向が強まるかもしれませんが、基本的に「字数条件は最終確認に使うもの」という意識を持っておいた方が良いでしょう。意味から攻めるのが本筋です。

まずは、——線部2を一文全体でとらえます。

それには、文章の書き方において、②ひとつの方法を身につけることができたことが大きかったように思える。

ここから分かる情報とは、

・「ひとつの方法」は、文章の書き方に関するものである。

・「ひとつの方法」は、筆者が身に着けたものである。

あたりでしょう。

また、解答らんの直前に書かれた「書こうとするものから、解答らんには「〇〇する」というニュアンスの言葉



が入りそうだが、という予測も立てられます。
以上のことをふまえて、問一同様「シンプルな形」を想定すると、

・(筆者は)書こうとするものを○とする方法を身に着けた
・筆者が身に着けたのは、書こうとするものを△△する方法だ

あたりになるでしょうか。
これを意識しつつ、本文を読み進めます。

八行目

そして、どうにか身につけることのできたその書き方とは、ひとことと言ってしまえば「できるだけ眼に見えるようにする」ということだった。

あとは字数とつながりに注意して答えをぬき出しましょう。

問三

線部 a「プロダクション」とありますが、次の 1〜5 の外来語を漢字の熟語で表現するとどうなりますか。後のア〜オから最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- 1 プログラム 2 プロジェクト
 - 3 プロセス 4 プロフィール 5 プロポーズ
- 選択肢
- ア 過程 イ 企画 ウ 求婚
 - エ 人物紹介 オ 番組表

外来語の問題です。英語が多いですが、英語に限らず様々な言語(中国語を除く)から入ってきた言葉が出題されます。

今回は、「プロ」から始まるシリーズです。「プロ (pro)」は「(時間・場所について)前に」という意味があります。

- 1 プログラム
「グラム (gram)」には「書く」という意味があります。「前に書く」ということで、「運動会のプログラム」のように「これから物事を行う手順を記したもの」という意味で使われます。「テレビのプログラム」という形で「番組表」という意味になります。
- 2 プロジェクト
「ジェクト (ject)」には「投げる」という意味があります。「前に投げる」ということで、「会社で新規のプロジェクトを立ち上げる」のように「企画・計画」という意味で使われます。

- 3 プロセス
「セス (cess)」には「進む」という意味があります。「前に(先に)進む」ということで、「温暖化が進むプロセスを食い止める」のように「過程」という意味で使われます。
- 4 プロフィール

英語っぽいですが、日本にはフランス語として入ってきたようです。英語の発音にもう少し近いカタカナにする「プロフィール」になります。こちらは犯罪捜査においてデータから犯人の特徴を推論する、という意味で使われることの多い言葉です。「新しく入団した選手のプロフィールを紹介する」のように、「人物紹介」という意味で使われます。

- 5 プロポーズ
「ポーズ (pose)」には「置く」という意味があります。「前に置く」ということで、「差し出す↓提案する」という意味になります。「二人の記念日にプロポーズする」のように、「求婚」という意味で使われます。

みなさんはまだ英語を本格的に勉強していないはずなので、一つ一つの語根(意味を表す最小の単位)については覚える必要はありません。ただし、言葉全体の意味と、どのような場面でのような使われ方をするのかについては、例文でおさえおくことが必要でしょう。

問四

線部 b「口をういて出てくる」とありますが、次の 1〜4 は「口」を用いた慣用句です。これについて、次の I・II の問いに答えなさい。

- 1 口口を合わせる
- 2 口口に乘せられる
- 3 口口を切る
- 4 口に口を立てる

- ア うまい話でたまされる
- イ 最初に発言する
- ウ 世間の悪口やうわさを防ぐ
- エ ほかの人と話の筋道を合わせる

- I 1〜4 の口にあてはまる漢字一字をそれぞれ答えなさい。
- II 1〜4 の意味として最も適当なものを、それぞれ次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

- II の問題があることで、逆に難易度が下がっている印象です。
- 1 口裏を合わせる・エ
- 2 口車に乗せられる・ア
- 3 口火を切る・イ
- 4 口に戸を立てる・ウ

特に難易度の高い語句はありませんが、4「口に戸を立てる」は「人の口に戸は立てられぬ」のように、否定の形で使われることが多いので覚えておきましょう。

問五

線部 c「自問自答」とありますが、次の 1～4 の意味をもつ、「自□自□」という形の四字熟語を答えなさい。

- 1 必要な物資をみずからの生産だけでまかなうこと
- 2 自分のしたことを自分でほめること
- 3 人をだますために計画から実行まで自分ですること
- 4 思いのままにすること

1～4 の意味から直接思いつければ早いでしょう。

「共通点を見つける」という観点から 1～4 をながめ、1

～3 は「自□自分」であると気づければ、「自①自②」の①・

②が、設問で示された意味のどの部分と対応しているか考え、熟語を当てはめることで解答に近づくことが可能です。

1 自給自足 (給□生産、足□まかなう)

例文) 田舎で自給自足の生活を送る。

2 自画自賛 (画□したこと、賛□ほめる)

例文) あまり自画自賛ばかりしていると、相手はうんざりするよ。

3 自作自演 (作□計画、演□実行)

例文) 先日の強盗事件は、被害者の自作自演だったことが分かった。

4 は「自□自分」ではなく、「自由」「自在」と、「思い通りになる」という意味の熟語が重ねられています。

例文) 彼は四か国語を自由自在に操る。

問六

問題文中の会話文の内容を参考に、線部の言葉をこのままの形ですべて使って、五十字以上百字以内で作文をなさい。ただし、「夏休み」は最初に、「三びき」は最後に用いるようにすること。他の言葉の順序は入れかえてもかまいません。また、同じ言葉を何度用いても構いません。

線部

《夏休み セミとり ミンミンゼミ アブラゼミ

用心づかい ちよつとバカ 一〇〇ぴき 三びき》

本文中で語られている「作文の書き方」は、「ぼんやりとした体験や考えを単語という形で眼に見えるものにし、それを簡単なセンテンス(□文。本文に注がついています)にまとめることを繰り返して文をつなげていく」というものです。これに沿って書いていきます。いきなり解答用紙に書くのではなく、いくつかの単語をつなげて簡単なセンテンスを作っておき、ある程度字数の算段がついてから書き始める方が良いでしょう。「五十字以上百字以内」という条件を見ても、つなげ方についてはかなり許容の幅が広いと思われる。

また、この問題に限らず、普段から記述解答を作るときには「解答に盛りこむべき要素」を単語の形(要は、箇条書きにできるような短い形)で考える習慣をつけ、それらをつなげて文を作るといった意識を持っておくと、記述問題が取り組みやすくなります。

二

次の 1～3 の各組の俳句を、春から季節の順に並べ、記号で答えなさい。

著作権の関係から、俳句は一句すべてを表示することができません。したがって、句中のキーワードからどう答えを決定するかについて解説します。

問題をお手元に置いてお読みいただければと思います。

季語については、

- ・ 行事
- ・ 気候
- ・ 生物
- ・ 植物
- ・ 食べ物

などがよく使われます。技術の発達によって一年中食べられるものも多のですが、実生活の中で「旬」の食べ物を楽しんでみるなど、机に向かわない形での勉強が生きてくる分野だと言えるでしょう。できれば、家族全体で楽しめるの良いですね。

1

ア(田打) ↓エ(草むしり) ↓ウ(藁) ↓イ(大根)

2 エ(桜鯛) ↓イ(鮎) ↓ア(さんま) ↓ウ(鰯)

3 ア(藤の花) ↓ウ(菖蒲) ↓エ(菊) ↓イ(実南天)

基本的には季語の知識だけでなんとかできる問題ですが、

2 ア「暑を置き」 ↓夏の次の季節 ↓秋

ウ「ほのかに白き」 ↓雪 ↓冬

3 イ「水漬」 ↓風邪 ↓冬

など、季語以外の(水漬は冬の季語ですが)部分にもヒントがたくさんあるので、あきらめずにしっかり探しましょう。

また、関連する知識として

3のウ・エの「菖蒲」「菊」を使った「六日の菖蒲、十日の菊(時機に遅れたものは役に立たない)」も知っておきたいところです。



三 次の1・2の——線部の言葉と同じ使い方のものを、それぞれ後のア～オからすべて選び、記号で答えなさい。

文法の識別問題です。同じ形でありながら意味・用法が違うものなので、できるだけ「意味の同じ別の形(言葉)」に言い換えてから比べるようにしましょう。

- 1 試合に勝つために熱心に練習している。
- ア 雨が降ることをいのるために祭りをおこなう。
- イ 宿題を忘れたために注意された。
- ウ 準備がおくれているために延期となった。
- エ つかれをいやすために温泉へ行った。
- オ 雪が積もっているために通行止めとなった。

1の「ために」は「目的や期待」を表します。「～ことを目的に」と言い換えることができます。

これと合致する(同じ言い換え方ができる)のはア・エです。イ・ウ・オはどれも「原因・理由」を表す「ために」で、「～のせいで」と言い換えることができます。

2 市場が閉まると目に入るのはシャッターばかりになった。

- ア かれはいつも不満ばかり言っている。
- イ ゲームばかりしていてはいけない。
- ウ 先ほど目的地に着いたばかりだ。
- エ なみだを流さんばかりに喜んだ。
- オ 六月に入って雨ばかり降っている。

2の「ばかり」は範囲を限定する用法で「～だけ」「～のみ」と言い換えることができます。これと合致するのはア・イ・オです。ウは動作が完了して間もないことを表す用法、エはある動作が今にも行われそうな状態であることを示す用法です。

文法の識別問題に強くなるために最も効果的な参考書は、国語辞典です。「ため」「ばかり」でひくと、例文つきで意味が書き分けられています。めんどろだと思わずに、どんなひいて確かめましょう。

四 次の1～5の各組の□に同じ漢字一字を入れると、三つの言葉がで上がりります。□に入れるのに適当な漢字をそれぞれ答えなさい。

- | | | | |
|---|----|----|------|
| 1 | 時□ | 交□ | 千□紙 |
| 2 | 大□ | □乳 | □知識 |
| 3 | 年□ | 屋□ | □すべり |
| 4 | 夕□ | 平□ | □用品 |
| 5 | 今□ | 王□ | □飯前 |

空らん前後の漢字について、「読みを固定してしまわない」ことを心がけておく必要があります。たとえば、3の「屋」の読みを「や」で固定してしまうと、出てくるのはせいぜい「屋根」「屋号」くらいでしょう。「根」も「号」も「年」や「すべり」とつながらないので、ここで行き詰ってしまいます。

- 1 時代(ダイ) 交代(タイ) 千代(よ)紙
- 2 大豆(ズ) 豆(トウ)乳 豆(まめ)知識
- 3 年上(うえ) 屋上(ジョウ) 上(うわ)すべり
- 4 夕日(ひ) 平日(ジツ) 日(ニチ)用品
- 5 今朝(熟字訓) 王朝(チョウ) 朝(あさ)飯前

読みがたくさんある字は、比較的簡単に低学年のうちに習うものが多いです。できるだけ、新出漢字を覚えるときにその字を使った熟語と一緒にたくさん覚えてしまうようにしましょう。

漢字には、字そのものだけでなく読みにも配当学年があります。例えば、「担」という字は六年生で習う字ですが、訓読みの「かつ(ぐ)」「や」「にな(う)」は高校で習う読みです。「担当」「担任」「分担」などの熟語の意味は訓読みの方がとらえやすいですし、できれば漢字の形を習った時点でその字の読みはすべておさえてしまうと効率が良いのではないかと思います。

五 次の1～4の文の□に入る言葉をそれぞれ答えなさい。ただし、すべて「あ」で始まるひらがな三字で、「あ」以外の二字もア段(あ、か、さ、た…)です。

- 1 かれは見るからに不満を□にした顔つきをしていた。
- 2 不注意から、□大事故になってしまったところだった。
- 3 父は有能で、いろいろな企業から引く手□だったそうだ。
- 4 中学に入学し、思いを□にして学習にいそしむ。

「あ○○」という形(しかも、○の字はどちらもア段)という強烈な条件がありますが、基本としては空らんにとどのようなニュアンスの言葉が入るかを考えていきましょう。

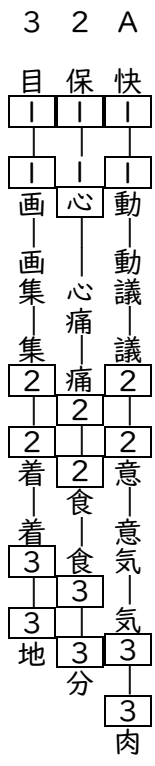
- 1 不満を「かくさず出す」↓あらわ(露わ)
- 2 「危うく」大事故になってしまふ↓あわや
- 3 引く手が「たくさん」ある↓あまた
- 4 思いを「新しく」する↓あらた

同じ特徴をもったものでグループ分けして言葉をとらえるのは非常に有効です。「覚えなければならぬ」という方



向ではなく、「形が似ていて面白い」という方向で覚えていけるといいですね。

六 後の「条件」にしたがって、次の1〜3の漢字しりとりを完成させなさい。



「条件1」漢字の読みはすべて音読みで、かなで二字です。

「条件2」一つの字の読み方は二回ともまったく同じです。

「条件3」各組の1〜3の漢字の読みの一文字目は、すべて

同じ行(たとえば力行ならカキクケコ)の別の読み方です。

「条件4」各組の1〜3の漢字の読みのみ二字目は、すべて同じで、「く」「つ」「ん」のいずれかです。

(例) 相——知——解——解——3止

「答え」 1 関(かん) 2 見(けん) 3 禁(きん)

条件付きしりとりの大原則は

「(自分にとって) 使いやすい条件だけ使って考える」

「答えを出すために使わなかった条件は、答えの確定時に必ず使う」

の二つです。

条件に当てはまるもの、という限定に従って考えると候補は出てきにくくなりますが、いったん候補が見つければそれがそのまま答えになる確率は高まります。

条件はとりあえず無視してしりとりを作ることだけに集中するという攻め方の場合は、しりとり自体は作りやすくなる可能性があります。できあがった解答が条件を満たさないことも考えられます。

多くの場合、解答に使われる語句は受験生なら一度は目にしたことのあるものばかりです。「知ってはいるが出てこない」をできるだけ防ぐには、「やるべき作業」をしぼって、ひたすら鉛筆を動かすことが効果的です。

ただし、今回の問題では、いったんできるところまで条件なしで単純にしりとりを作りに行き、ある程度候補が出てきたところで「条件3」「条件4」でしぼりこみ、最終的にはすべての条件を満たすことを確認するように勧めていくのが得策でしょう。熟語のしりとりは、例年最後に配置されることもあり、なかなか全問正解までたどりつきにくい問題ですが、「条件3」「条件4」をうまく使って限定していれば、全問正解もじゅうぶん見こめる難易度だったといえるでしょう。

【参考資料】

音読みになりやすい読みの特徴をいくつか挙げておきます。

・小さい「ヤユヨ」が入る読み

例) 町(チヨウ)、京(キョウ)、主(シュ)

・「ン」で終わる二字の読み(例外あり)

例) 巻(カン)、金(キン)、訓(クン)

【例外】神(かん)、問(とん)、何(なん)、四(よん)

・発音すると「一音の長音」になる読み(例外あり)

例) 高(こう↓コー)、軽(けい↓ケー)、通(つう↓ツ)

【例外】タ(ゆう)、十(とお)

今回の問題は条件がかなり厳しくつけられているので、別解はないものと思われれます。

最後に、しりとりに使われた語句(やや難しいもののみ)の解説です。

1

快活(かいかつ) || 明るく元気である様子。

例文) 弟は快活な性格をしている。

気骨(きこつ) || 自分の信じるものを貫こうとする強い心。

例文) 彼ぐらい気骨のある人は今どきめずらしいよ。

※同じ熟語で「きぼね」と読むと、「気苦労が多くて疲れる」という意味になります。

例文) 自分より年上の人に対する指導は気骨が折れる。

骨肉(こつにく) || 親子や兄弟など、血のつながりがある

相手。

例文) 彼の死後、遺産をめぐって骨肉の争いが繰り広げられた。

2

心痛(しんつう) || 心配すること。

例文) お母さまの心痛、お察しいたします。

痛飲(つういん) || たくさんお酒を飲むこと。

例文) 久しぶりに会った大学時代の同期と痛飲した。

3

目録(もくろく) || ものをゆずりわたす時などに、その内

容を列挙したもの。

例文) 贈答品の目録を受け取る。

落着(らくちゃく) || 物事が決着すること。落ち着くこと。

例文) これでこの事件は落着だね。

